【国 土 交 通 省】

近 畿 地 方 整 備 局

資　料

近畿防災連絡会

堺泉北港 堺2区 基幹的広域防災拠点について

国土交通省

平成25年3月7日

近畿地方整備局

堺泉北港 堺2区 基幹的広域防災拠点の供用開始について

京阪神都市圏において、大規模地震発生時等の災害応急活動の核となる施設として近畿地方整備局が整備を進めてきた基幹的広域防災拠点が、**平成２４年４月１日（日）より供用**。

２４時間、３６５日の職員常駐体制を実施。

堺泉北港 堺2区 基幹的広域防災拠点の施設について

堺２区基幹的広域防災拠点は、近畿圏臨海防災センター、緑地、耐震強化岸壁、臨港道路で構成。

臨港道路　延長3.5km
（平成22年度供用済）

耐震強化岸壁
水深7.5m，延長130m
（平成23年度供用済）

近畿圏臨海防災センター ※
（平成24年4月1日供用開始）

※ 支援施設棟、倉庫棟、車庫棟で構成

緑地　面積27.9ha
（平成24年4月1日供用開始）

堺泉北港 堺2区 基幹的広域防災拠点の利用イメージ

発生が危惧されている上町断層帯地震や東南海・南海地震等の大規模災害の際に、救援物資の中継基地や被災地支援隊のベースキャンプ、あるいはヘリコプターによる災害医療支援など重要な機能を担うとともに、平常時には、緑地は、市民の憩いの広場として活用。

●基幹的広域防災拠点の機能

【救援物資の中継・分配機能】
被災地域外から被災地域内への救援物資の中継輸送、集積、荷さばき、分配等を行う、各種交通基盤のネットワークと連携した救援物資の中継分配機能。

【広域支援部隊の集結地・キャンプ機能】
全国から集結する広域支援部隊や救護班、国内外からのNPO・ボランティア等の活動要員の一次集結、野営、連絡等を行うことができるベースキャンプ機能。

【応急復旧用資機材の備蓄機能】
当該広域防災拠点の応急復旧用資機材等の備蓄機能。

【海上輸送支援機能】
海上を利用した緊急物資や人員の搬入・搬出を行うことができる耐震強化岸壁及び浮体式防災基地を活用した救援物資等の海上輸送支援機能。

【災害医療支援機能】
臨時ヘリポートを活用し、災害拠点病院などと連携した災害時医療の補完・支援機能。

平常時

災害時にオープンスペースとして機能する広く平坦な港湾緑地を活用し、市民の憩いの場、防災啓蒙活動拠点として利用。

大規模災害の発生

発災時

耐震強化岸壁、ヘリポート、臨港道路を活用し、救援物資の受け入れ・中継・分配・搬送を行うとともに、広域支援部隊の集結地・ベースキャンプとして機能。

堺泉北港 堺2区 基幹的広域防災拠点の各施設の概要（1）

【近畿圏臨海防災センター】

・近畿圏臨海防災センターは支援施設棟、車庫棟、倉庫棟で構成。
・支援施設棟は、災害応急活動の拠点となる施設で、自家発電機や海水淡水化装置等を設置。
　●自家発電機は220KVAで、9，950㍑の重油を備蓄（10日～1ヶ月程度の電力供給が可能）。
　●海水淡水化装置は17m^3/日の能力を有する（約5，000人分の飲料に相当）。
・車庫棟及び倉庫棟には、支援活動のための車両や資機材等を保管。

■支援施設棟

発災時の支援活動を行うための機器を設置・保管

- 投光器（発動発電機付）　：　42台
- 投光器（多脚型）　：　28台
- 海水淡水化装置（17m3/日）　：　1式
- 自家発電機（220KVA）　：　1台
- 自家発電機用重油　：9，950㍑

■車庫棟

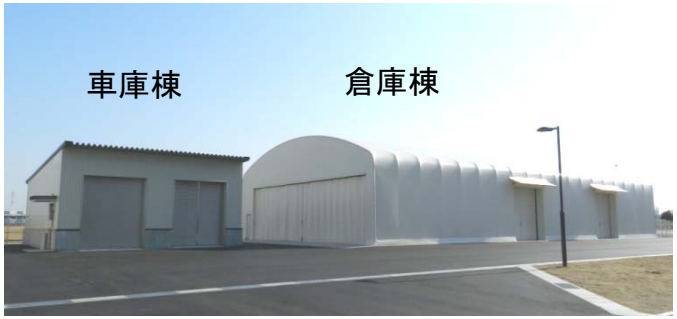
発災時に支援活動を行うための車両等を保管

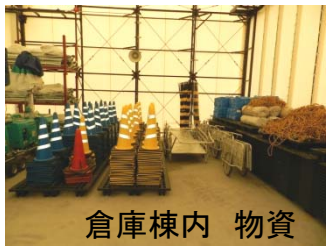
- 点検用車両　：1台
- バックホウ　：1台
- フォークリフト　：2台
- 振動コンパクタ　：2台
- 牽引式運搬車　：1台
- 大型テント　：2張
- ヘリポート用夜間照明　：1式

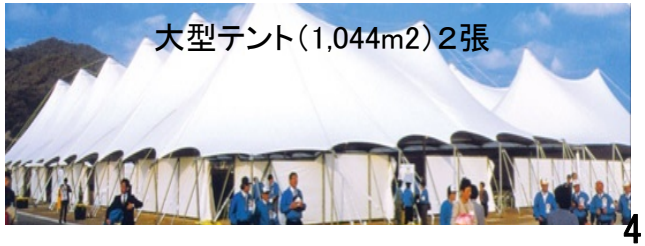
■倉庫棟

発災時における防災拠点施設内の通路に敷設する資機材等を保管

- 敷鉄板（6m×1.5m）　：48枚
- 軽量敷板（1.2m×2.4m）　：2，780枚
- パレット（1.1m×1.1m）　：2，700個
- その他保管物資
　（テント、カラーコーン、工具類等）







堺泉北港 堺2区基幹的広域防災拠点の各施設の概要（2）

【緑地】

・救援物資の中継・分配や、広域支援部隊の集結・ベースキャンプ用地として、面積27．9haを確保（甲子園球場7個分）。
・護岸高さは、直下地震(上町断層帯地震)および高潮等を考慮して、TP＋６．　１ｍと設定。
・緑地北側護岸では、緊急物資や人員の海上からの搬入・搬出を行うため、浮体式防災基地を係留可能。
・平常時は、市民の憩いの場として一般開放。

災害時の緊急物資の荷捌きや支援部隊の展開

平成19年新潟県中越沖地震の例（新潟県柏崎港）

耐震強化岸壁を利用した緊急物資の輸送

平成23年東日本大震災の例（仙台塩釜港）

【耐震強化岸壁】

・緊急物資や人員の海上からの搬入・搬出を行うための耐震強化岸壁（水深7.5m、延長130m）。
・5，000トン（DWT）級の船舶が接岸可能。
・平常時は、鋼材等の貨物を取り扱う岸壁として利用。

耐震強化岸壁に着岸可能な艦船の例

機関名	艦船名	全　長
海上自衛隊	護衛艦（あぶくま型） 輸送艇（ゆら型） 掃海艇（うわじま型等）	109m 58m 57m
海上保安部	巡視船（PLH級）	105.4m

巡視船（PLH級せっつ）

護衛艦（あぶくま型）

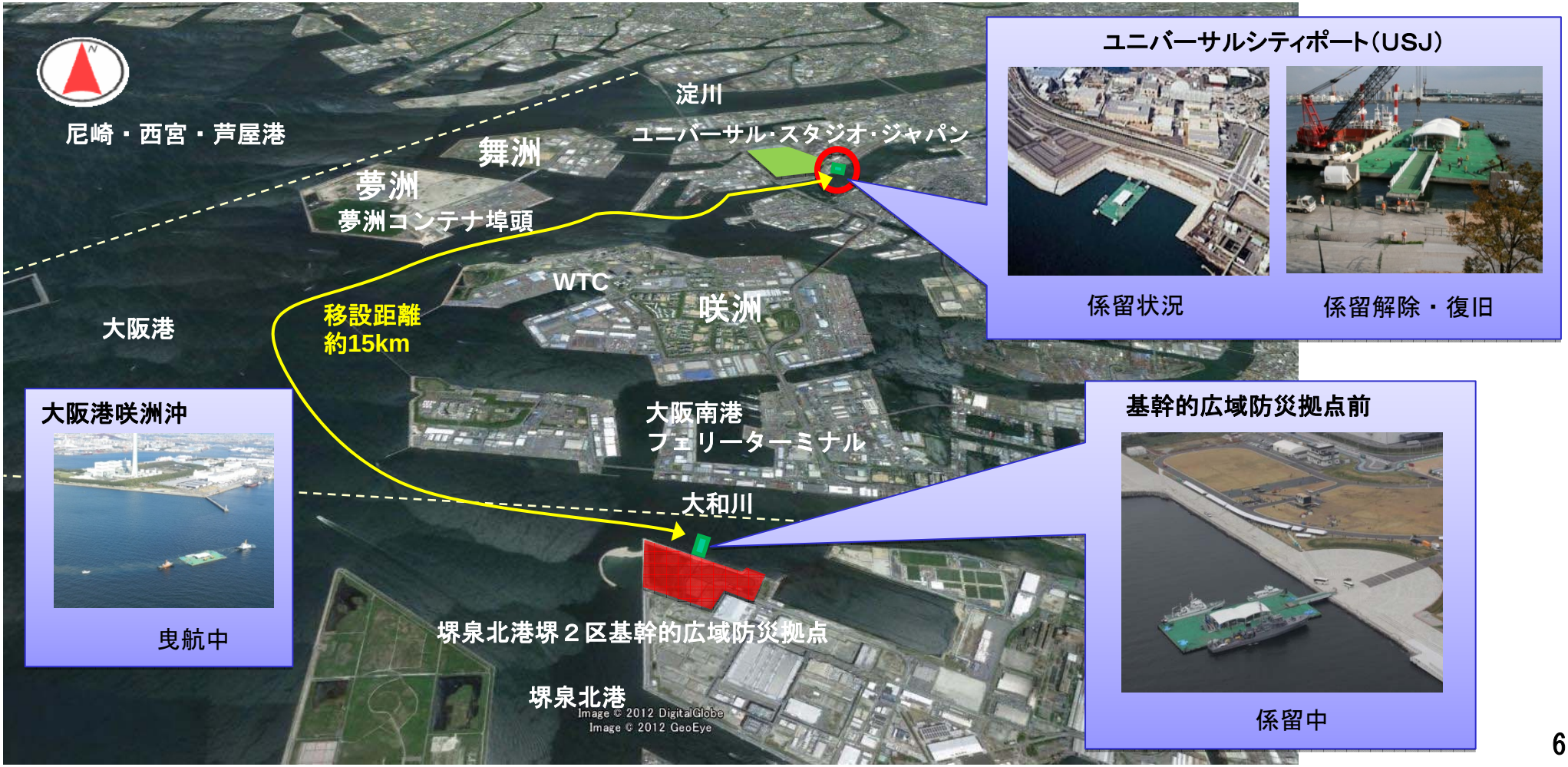
輸送艇（ゆら型）

掃海艇（うわじま型）

堺泉北港 堺2区 基幹的広域防災拠点の各施設の概要（3）

浮体式防災基地の活用（写真：近畿地方整備局・堺市合同震災総合防災訓練：平成２４年１１月５日）

・浮体式防災基地（80m×40m）は、大阪港内のユニバーサル・スタジオ・ジャパン（U・S・J）前面に係留されており、定期観光船の船着場として活用。
・大規模災害が発生した場合は、堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点へ曳航し、小型の貨物船（1,000DWT級以下）や人員輸送船の緊急用桟橋として活用。



近畿地方整備局･堺市合同震災総合防災訓練（1）

津波防災の日である11月5日に、堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点において、堺市、地元中学校、自衛隊、警察、海保等の関係機関による初めての震災総合防災訓練を実施。

１．日程
平成２４年１１月５日（月）９時３０分～１１時３０分

２．場所　堺泉北港堺２区基幹的広域防災拠点
（大阪府堺市堺区匠町３番２）

３．主催　国土交通省近畿地方整備局、堺市

４．後援　大阪湾港湾事業継続計画協議会
南海トラフ巨大地震対策近畿ブロック協議会

５．参加機関、２１機関
内閣府、国土交通省（近畿地方整備局、近畿運輸局）、
陸上自衛隊第３師団、海上自衛隊阪神基地隊、
第五管区海上保安本部、大阪府、堺市、大阪府警察、
大阪市消防局、日本赤十字社大阪府支部、市立堺病院ＤＭＡＴ、
西日本電信電話㈱、関西電力㈱、大阪ガス㈱、
㈳日本埋立浚渫協会、大阪府トラック協会泉州支部、
大阪労災病院看護専門学校、堺市自治連合協議会、
㈱クボタ堺製造所、月州中学校

６．主な訓練項目
①津波避難訓練
②人命救助・消火訓練
③緊急支援物資輸送準備訓練
④緊急支援物資輸送訓練
⑤ライフライン復旧訓練

７．来場者　訓練参加者　約７００名
関係者・一般来場者　約５００名
合　計　約１，２００名

①　津波避難訓練

避難広報（大津波警報発令）

地元中学生が、仮想津波避難ビルへ避難
（仮想津波避難ビル：支援施設棟）

②　人命救助・消火訓練

自治会と中学生が倒壊家屋から
人命救助

看護専門学生が応急救護所を
開設

大阪府警ヘリが吊上げ救助

救助隊が倒壊ビルへの進入路確保

近畿地方整備局・堺市合同震災総合防災訓練（2）

③　緊急支援物資輸送準備訓練

海洋環境整備船「海和歌丸」が
航路啓開（流木回収）

近畿地整職員が重機を使用し
道路の応急復旧（流木除去）

近畿地整職員の調査隊が
緑地の陥没状況の調査

協定建設会社が緑地の陥没箇所
の応急復旧

④　緊急支援物資輸送訓練

トラック協会が耐震強化岸壁から
緑地の荷さばき場へ物資の搬入

関係機関が協力し、浮体式防災基地から
自衛艦（掃海艇）等に物資の積込

⑤　ライフライン復旧訓練

大阪ガスが損傷したガス管の復旧

ＮＴＴが移動携帯基地局を開設

●　基幹的広域防災拠点を使用した防災学習

中学生による訓練参加機関隊員
へのインタビュー（海上保安部）

中学生による訓練参加機関隊員
へのインタビュー（陸上自衛隊）

中学生を対象とした
赤十字による救命講習

中学生を対象とした
近畿地整職員による防災講話